



日刊 日三十二月七年三十和昭
日刊 日三十二月七年三十和昭
日刊 日三十二月七年三十和昭

座講識常
表現派は心の姿を表した
本欄で云へる如く思想感情を外に表すのが表現である意から形式を無視し自然の再現を第二とし直ちに内容を表現せんとするもの

平市と町村産組

報國貯金五十萬圓

三ヶ年間据置で遂行の誓ひ

明廿三日縣主腦部會議
本縣産業組合支部では地方産物三(勿來)氏その他各出張所業組合との聯絡關係を打合すべく明廿三日午前九時から平市の那部事務所に協同會議を開き、報國貯金の遂行に關して、附議の答であつて貯金は既に第一回の貯金を終り、平市と酒井事務、同縣から三浦事務出張、石城部會から青沼部會長、木田主事補、縣信聯出張所の酒井理事、同縣小松

訓盲院の職員生徒

夏季一ヶ月の奉仕

來院患者の治療に應じて

半額收受の療金を獻金
平市警視院の職員生徒一支部奉仕に於ける皇軍の勞苦を同は時局に處する奉仕のため、を徳び盲人なるが故の戦場に今夏季休暇を感し來る二十五日から八月二十五日に至る一ヶ月間來院の希望者に對し普通料金の半額を以て治療に應じ得たる收入全部を軍資金に獻納することの申合せを遂げたが同院では昨年夏季にも

巡查採用試験

廢品回収懇話

本縣の巡查採用試験は今二十一日縣下一齊に各警察署に於て行はれたが平署の受験者は僅かに十名である採用は近く施行する第二次試験の上發表される

金華山沖に好漁場

鯉漁漸く活氣づく

當業は大漁と高値に大喜び

石城の各船も豊漁を續ける
本縣沿海に於ける今年の鯉漁は一團宮城縣沖に飛び越えた形で盛漁を見られ、近頃は最近に至り金華山沖の漁場に好望を傳へられ、各漁船の出航に賑はされてゐる今年の鯉漁の相場は、前年より高値を占めてゐる當業者を喜ばしてゐるが石城各漁船の出航も同漁場に於て好漁を續けてゐると

昨日の俵米共販

相場は保ち合ひ

平均十二圓九十六錢

石城郡に於ける昨二十一日の俵米定期共販は一、千七百二十四俵の出廻りあり、廿餘名の競札の結果最高十三圓四錢、最低十二圓九十二錢で、一千三百七十七俵を取引され、六百八十七俵の不調を見た各倉庫の出荷及び取引相場を上げれば左記の如く、価格は前回の保ち合ひで昨年同様の最高十二圓四十三錢、最低十二圓二十錢に比すれば一俵に付七十錢の高騰である

調) 高久一七七俵(十二圓九十六錢)植田四八俵(十二圓九十六錢)以上
九十七錢)小川一五三俵(九十四錢)夏井三九俵(十三圓十六錢)以上

戰地留守宅に御高配

厚く御禮申上候

平市長橋町出身 酒井賢司

拜啓、日増し酷暑相加はり、夜更に相成候折柄、御高配の御事と存じ上げ、御禮申上候。又留守宅に於きましては種々御高配に預り居り候事と存じ候、厚く御禮申上候。尚ほ向後共何分よろしく御願申上候、先づは右御見舞申上候事々々御厚禮申上候、敬具

暑氣釜中の如し

今日塾中庭で

本縣體育聯盟の中等校庭球、籃球、排球競技會は今廿二日

暑氣釜中の如し、今日塾中庭で、本縣體育聯盟の中等校庭球、籃球、排球競技會は今廿二日、本縣體育聯盟の中等校庭球、籃球、排球競技會は今廿二日、本縣體育聯盟の中等校庭球、籃球、排球競技會は今廿二日

中支視察旅行記

駒木根忠三氏より

高橋部隊は福島縣郡山市の出身で陸軍歩兵少佐であり、南支では市中見學に際し自動車の手配までして頂き、戦跡や名所舊蹟も案内して下さり、御親切には私共は感謝の言葉を述べないが、この支那の旅は、私と同隊人と云ふ支那部隊に逢ひ、私共も支那部隊に逢ひ、私共も支那部隊に逢ひ

護國の華

内郷村出身勇士
★加藤富次上等兵、石城郡内郷村出身、兩角部隊に屬し中支戦線(五月八月)に於て名譽の戦死を遂げた旨、昨二十一日原隊から發表されたが同君は出征前まで東京市瀬川の川町二〇八九に居住、郵便局の集配人をしてゐたもので東京の留守宅には妻の(三三)さんと子供二人、兩親は既に死亡し原籍の内郷には養父喜八(三三)さんと養母なかがさんが居り魚商を營んでゐる

入市木火同業組合創設協議

廿四日開休會上で

平市木炭同業組合の設立は市内當業の狩谷一、郡司吉男、佐藤繁次、阿部徳平、松本正一郎氏等の發起で奔走されてゐたが同業六十餘名の同意書を得たので急上る二十四日午前十時から郡團體事務所樓上に創立準備の協議會を開催する

入遠野信用の創立委員會

急上設立を決定

石城郡下に産業組合は三十五ヶ町村の内入遠野、上遠野、三坂澤渡組合の三ヶ村を以て設置を見てゐるので如記未設地に對し指導當局から設立を懇請されてゐたが三坂澤渡及び入遠野は漸く創設の機運を迎ひ入遠野村は昨二十一日午後一時同村小學校に創立委員會を開き左記役員を決定を見たが出資は一口二十圓で申込金一口に付二圓、保證金五十圓、出資申込は七月と十月の二回である

有名な防空壕はこの紫金山の附近にあるのであります、それは普通の平地から五尺位のところへ入口があつて其れから急上螺旋形で八階六十四段を下つて行く、其所には十個隊位の收容能力をもつ壕があり真ん中の通路を挟んで兩側が部屋になつて居ると云ふ實に混み入つた任組であり、尚ほ一番下に何か廻す物が附てゐるが覗くと見ると其れはどうか地上の方角を見るためのものと思はれ、中山門

高島屋洋服店

御誂ひも既製品も
平二電三六六

中山門は中山門に行く途中にある堅固な大きな門であり、皇軍の工兵隊の爆撃によつて全部破壊されてゐた、激戦の跡が偲ばれます、此處は〇〇部隊入城の地であり、此處にある道路を中山門と云へ、此所から上海郊外下關まで續いて居ります、光華門は彼の有名な臨城部隊の一番乗りをした處であり、あつて此の話を聞きたる人悲憤を感じないものは恐らく日本人にはあるまい、

